

◎八木勝自「重度身体障害者の地域生活 自立と社会参加」

今まで、重度障がい者の方と接することが殆ど無かった中で、講師の方、ご自身が重度障がい者であったことに正直、驚いた。

最初に見せていただいたDVDで障害者の方の自立生活に向けての社会環境の変遷を知った。特に介護タクシーに携わっている私にとって、鉄道やバスなどによる移動手段について、当時の社会的差別の厳しい現状について、改めて知ることができた。資料より「さよならバリアフリー、こんにちはユニバーサルデザイン」社会の公平さや人々の社会参加を考えた時、これからはバリアフリーではなく、ユニバーサルデザインを進めるべきだと感じた。

(60代男性：一般)

障害者の自立とは、概念にもあるように、特に判断能力がある障害者が、自己選択、自己決定、自己責任で人生や自分のしたいことを社会や人々と影響を与えたり、受けたりして実現して行くこと。そのためには、保護的な要素の強い介護ではなく、障害者が自分で責任をもち、判断・指示したことをサポートする介助が必要となること。この介助で社会参加や生活経験を重ね、時には失敗も成長の過程で、生きていく力をつけていく事のエンパワーメントに繋がっていく事を学びました。

本年度から共生型が導入され、理解や社会資源の活用等は増えてきましたが、自立を考えると、就労や支給量等問題も多く切なくなりますが、私たち障害者に関わる人や、いろんな人々がサポートし、障害者が当たり前前に社会で自由に生活をし、地域で共に暮らし、共に生きていくという事を広めていきたいと思えます。

(40代女性：テイサービス)

八木氏の講演の映画の中で、施設から地域に出た時、世の中にはこんなに2本足で健全者がたくさんいる事にビックリしてしまったとの事。当たり前のように2本足で歩き、健全者として生活している事に改めて感謝の気持ちを抱きました。

1980年から社会が大きく変わった事、施設から地域に出た頃は、歩道から歩道の段差があり、介助者がタイヤを持ち上げたり下げたりと大変だった。

2003年から制度や環境が整って社会参加が出来る様になったことに時代の流れを感じました。

(70代女性：訪問介護・老健施設)

「ふつう」「対等」「自立」などの言葉は、一般的には健常者の基準で使われています。基準からはみ出た者を「かわいそう」「たいへん」と思うのは、相手を見下している側面があり、本当には相手を対等の人間として見ていないような気がします。

「弱者のために●●してあげる」という考え方は、おこがましさの表れであり、それを自覚しないと、手伝う側・手伝われる側の距離は縮まらないと思います。

それはまた、健常者同士でも同様に、「できる者」は「できない者」をつねに見下し、自分の基準で相手をコントロールすることを正義だと信じているのです。

互いの人権を尊重するのは難しい……だから大切なのかもしれません。

(50代女性：老健施設)

一般に健常者と言われる私を含めた人々や、そんな人々がまだ中心にいて作られているような社会が、本当に「健全」だと言えるのか、というようなことを考えさせられた。

効率だけ求め、あれこれと急かされるような社会では、本人のペースではなく、押しつけられたペースで様々な仕事、日常の雑事をこなすことになり、これは障害者だけでなく、健全な人々の心身にも決してよいものでは無いのだろうか。

(20代男性：文福アルバイト)

富山大学総合科目（私もとっている）

「人権と福祉」でやるような内容であった。障害者問題はこの先なのでいい予習になったと思う。あくまでも介助者は利用者の“手”であることを改めて感じた。

介助と介護・意味上は同じに思っていたが、ニュアンスは全く違う事を上記講義で知ったが、今回でより理解することが出来た。

(10代男性：文福アルバイト)

私は障害者の自立についてぼんやりとしたイメージしかもっていませんでしたが、映画の中で森田さんの生活している姿を見て、自己選択・自己決定・自己責任とはこういうものなのかと、改めて認識できました。

テキストの中でおどろいたのは、ヘルパーの業務の中で、できることできないこと、グレーゾーン等があることでした。たしかに衛生面や医療面で注意が必要なのは分かりますが、本当に必要なものか？と首をひねるのもあるので気になりました。

(30代男性：文福アルバイト)

◎福田文恵「基礎的な介護技術」

介護福祉士として働いている今、改めて基本・基礎が大切だと思います。介護の仕事に携わり時が経ち、いろんな利用者の方々のおかげで私は一介助者として成長させて頂いています。しかし、福田さんの話をお聴きし、振り返ると利用者の意志を尊重しているつもりが、安全面や良かれと思い先取りし、本来の介助でなく介護になっている時があり反省させられました。

今回の受講で基本・基礎を元に、個々に合わせた介助、そして介助をするには最も重要で永遠のテーマだと思う「心理的介助技術」を自分なりに少しずつでも向上させていき、利用者の方々ともっと良い信頼関係を築いていきたいです。

(40代女性：テイサービス)

利用者側の思いについて少し理解が深まった。利用者のあるがままを受け入れるためにも、相手の言うことを正確に聞き取り、手順や数量などの細かな点も確認しながら介助をするようにしたい。

(20代男性：文福アルバイト)

基本的なことは知っていたが、改めて介助者として心がけるべきマナーを学ぶことができた。少々仕事に慣れてきて、声かけなどが不足していると思っていたところでこの話を聞いて、相手のことを聞くという重要性を再認識した。

(10代男性：文福アルバイト)

私は文福で介助をしていて「良かれ」と思ってやったことが逆におこらせてしまい、何度か注意をうけていたので、身にしみて理解できました。ただ、テキストなどで理解したつもりでも、実際の介助等でやってしまうことがあると思うので、逆に失敗してよかったのかなと思いました。

(30代男性：文福アルバイト)

◎平井誠一「人権について考えよう」

1970年代に親によって障害児・者殺しが多かった事実を知り、大変驚かされました。殺人を犯した親に対しての刑の軽減を求める嘆願運動や、不幸な子を産まない運動など、当時は障害者の存在自体を否定してしまう空気があったように感じました。

そういった世論を少しずつ変えてきたのは、当事者である障害者の方たちの運動だったと思いました。

(40代男性：一般)

障害者の方々が闘ってきたおかげで、昔に比べ偏見や差別が少なくなり、社会や行政、そして国を変えてきた事、法律や制度は出来たがまだまだ問題は山積みあると聴き、自分に何が出来るか考えると、まずは障害者に関わる私たちから差別なく、人間として当然の人権を尊重し、共に明るい未来を目指せたらと思います。

(40代女性：テイサービス)

障害者差別はあってはならぬと思う一人です。小さい頃は障害者の方を見ると子供心に不思議な目を見たものである。この研修に参加させて頂き、障害者の方の強さ、明るさを強く感じました。私たち健全者も障害者の方に負けない気持で日々を過ごしたいものです。2日間障害者の方々との交流できた事を大切に、今後の生活につなげていきます。

(70代：訪問介護・老健施設)

◎日下正秀・河上千鶴子（中村薫）「基礎的な介護技術」

家事支援の際も基本的家事技術と知識が必要であり、利用者の生活歴や習慣、こだわり、嗜好等さまざまな事を十分に理解する。そして一つ一つ傾聴し、指示通りお手伝いする事が大切だと教えていただき、私も実行していこうと思います。

(40代女性：テイサービス)

普段野菜を切るときは、自分が食べることしか考えておらず、雑な切り方をしているので、介助の仕事で料理するときは介助者の希望をよく聞いて料理をする必要があると思った。

(20代男性：文福アルバイト)

◎日下正秀・吉田彰「基礎的な介護技術（実技編）」

支持面積と重心移動で前後に足を開いた状態の人を押しても、中々倒れなかったり、仰向けの人を横向きにさせたいときは強引にするのではなく、片膝を立てて両腕を胸の位置で組み、てこの作用で動かすと軽い力でスムーズにできました。

利用者が車いすからベッドに移乗するとき、どうしてほしいのか意思の疎通が大事だと感じました。
(40代：一般)

マニュアルどおりではなく、1人1人の状況や希望に沿った方法が必要だと、改めて思いました。

「こうしなければならない」ではなく「こうしたほうがいいかもしれない」「こうしたらできるのでは」という考え方で、介助する側・される側・双方が話し合っただけで工夫していけたらいいですね。

(50代女性：老健施設)

ベッド、車いす間の移動、車いすの操作、歩行の補助などを習った。

車いすに乗ったのは初めてだったが、何も言われずにキャスターを上げられたりするのはかなり怖いことだと分かった。頭で考えていることと実際に体感するのではまったく別物だとよく理解できたと思う。

(20代男性：文福アルバイト)

障害者の介助を体験して、障害者の指示は聞き取れても意図がわからないことが多々あると感じた。意図をくみ取る能力をつけるのはいうまでもないが、これで良いかを逐一確認せねばと思った。

(10代男性：文福アルバイト)

◎ 「障害者とまちへ出よう」

障がい者スタッフの協力で実際に外出体験したが、セントラムやバス利用体験、昼食の Pasta の食事介助では、ぎこちない中ではあるが、本人と介助者の食べるタイミングなど基本的なことではあるが、良い体験をすることができた。

富山市内においてはエレベーター設置や歩道の段差など、思ったほど外出に際しての障害は改善されていると感じたが、最後に付近の階段を4人で車椅子をリフトアップしながら乗降体験をしたが、非常に大変だった。ぜひ、このような事をしなくてもスムーズに外出できる社会になればいいなと思った。 (60代男性：一般)

一緒に食事をするやり方や、町中での車イスの動かし方など、外出の際に必要な知識を色々と学べたと思う。

タイル張りの床のわずかな段差も車イスに衝撃を与えること、レールや少し急な場所は斜めに車イスを動かすと通りやすいこと、キャスターの力加減などは、実際にやってみないと分からないことなので、そのようなことが体験できたのは良い経験だった。

(20代男性：文福アルバイト)

強く思ったのは、街って車イスにやさしくないな、でした。

エレベーターやスロープ等設置が進んでいますが、それ以外のちょつとした段差かみぞだったり、勾配だったり、トビラだったり、通路だったり、小さな問題がたくさんあったように感じました。

(30代男性：文福アルバイト)

◎「感想」

今回、ザカイジヨを受講させて頂き、障害当事者の方々のお話には、富山型テイの理念に通ずるものがあり、とても勉強になりました。

私が勤めている富山型テイサービスは、お年寄りや子供、障害者（児）そのご家族等が住み慣れた地域の中で安心して、その人らしく暮らせるようにサポートしている所です。利用者だけでなく、スタッフ、障害者スタッフや近所の人、ボランティアなどいろんな人が出入りし、第2の我が家のように過ごし、風通しを良くしてくれます。これからも障がいの有無に関わらず、すべての人が共に支え合って、住み慣れた地域で一緒に暮らして生きていく。そうした活動を地域から発信させ広めていくことに努めていきたいと改めて思います。
(40代女性：テイサービス)

障害のある人が過ごしやすい社会は、ない人にも過ごしやすいという話が印象に残った。障害の有無に関らず、何かできないことがある人が、それをあまり不都合に感じないような社会を作っていけたら良いなと思った。
(20代男性：文福アルバイト)

今回、講義が入ったため基礎コースしか受けられなかったが、今秋や来年で改めて追加コースを受講して、介助に対するAdvancedな知識・技術を習得したい。
(10代男性：文福アルバイト)